

## 7 キャベツ

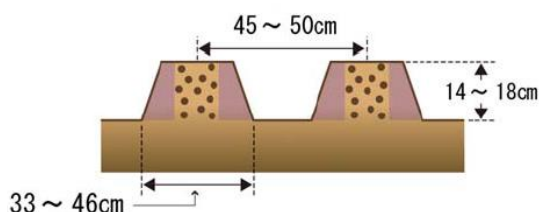
### <減肥ポイント>

#### ○全面マルチ用うね内部分施肥による減肥栽培（肥料コスト削減、肥料散布作業の省力）

#### （1）窒素の総施用量を削減する技術

うね内の定植部周辺に肥料を土壌と混和して帯状の施肥部分を形成する**うね内部分施肥機**を使うと、春まき作型では、うね内部分施肥機による**基肥の30%減肥**設定で慣行栽培と比べて90%から同程度の調整重が得られる。また、夏まき作型では、同施肥機による基肥30%～50%減肥設定で慣行栽培と比べて80%からほぼ同等の調整重が得られる。

うね内部分施肥機は一般的な全面マルチ用作業機よりもやや高額で、差額は概ね50万円前後であるが、**肥料コスト削減**と**肥料散布作業の省力**の2点から本機の導入メリットはある。



うね中央部で混和されるため、面積あたり50%減肥または30%減肥でも、全面全層施用と比較してうね内の肥料濃度はやや高めに設定さ

図1 うねの形状

表1 キャベツの春まき作型における調整重（平成22～23年 野菜花き試験場）

試験年度	試験区	設定窒素 kg/10a	全重 g	調整重 g	同左 C.V.	調整重 慣行比%	球高 cm	球径 cm
平成22年	基肥50%減	9.1	2,097	1,342	12	103	13.7	17.6
	基肥30%減	12.7	1,937	1,222	17	93	13.1	17.0
	慣行	18.2	2,017	1,309	18	100	13.6	17.4
平成23年	基肥50%減	9.1	2,214	1,348	20	88	12.7	18.6
	基肥30%減	12.7	2,349	1,483	20	96	13.0	19.0
	慣行	18.2	2,449	1,540	18	100	13.0	19.1

試験場所：南佐久郡小海町現地ほ場（1,100m）黒ボク土 区制・面積：1区68㎡ 1反復

品種：「輝吉」 育苗：128穴セルトレイ、無マルチ栽培

使用肥料：基肥 タキボリタン3号（13,15,10）、追肥 NK808（18,0,18）N9kg/10a 栽植密度6,666株（うね間45cm×株間30cm）

平成22年 は種：3月23日、うね立て：4月27日、定植：5月3日、調査：7月28日

平成23年 は種：4月25日、うね立て：5月19日、定植：5月19日、調査：8月8日

## (2) 有機質肥料、有機物を利用して化学肥料を代替する技術

前記した「Ⅲ 有機物の肥効特性」を参考にして、基肥の窒素成分を化学肥料から有機物に代替して化学肥料を削減できる。使用する肥料は、後述する「Ⅴ 実証試験等での施肥事例」の有機肥料を活用した施肥が参考になる。

### 〈関連普及技術〉

- ・全面マルチ用うね内部分施肥機は葉菜類（はくさい、キャベツ、レタス）の減肥栽培に利用できる（平成21年普及技術）